



marge 51

マルジュ

あなたのそばの
保険代理店
グット・ライフ



あなたのそばの保険屋さん

神奈川・平塚・立野町3995

八間通り沿い・済生会病院並び北へ徒歩

グット・ライフ

goodlife@cosmos.ocn.ne.jp

Tel 0463-37-1955 みないくごーこー

Fax 0463-37-1966



We wish "May be your good Samaritan every night and day."



WE GOOD LIFE

あなたの身近な問題に
答えるのが、私たちグット・ライフ
の仕事です。ぴったりサイズの安心をおあつらえ致します

「絶滅危惧種ですよ、イセダさんは」、なのだそうである。絶滅とは、おだやかでない。物騒なもの言い。老舗の文房具屋さん、万年筆を買う私を稀少な生き物と珍重するにしも。

コレクションを好まない。万年筆は道具、言わば身の内。中学入学祝い一本は、日記に読書ノートと三十五年の毎日耐える。ピクともしない。旧くても、パソコンのようにポロクズにはならない。からだの一部とはいえず、手の延長とするには、馴染ませ、使いこむ。五〇の齢からでは、日々の礼状をしたためるのがせいせいならば、身体化しない。ちよっくらは、私のクセを覚えたい。これからの知的生活を共にする一本を得ようとして、あれやこれやと購っている。

手ごろな国産品で、ペン先のやわらかなものがない。十八金がなくならない。キャップをはずして用いるにバランスがよく、筆圧の下限で太め、細めの字と書き分けられる自重のあるペンが少ない。洋ものならば、縦書きを試すとペン先が伸びひび滑らない造りがほとんどだ。

道員選びひとつがむづかしい。

若い店員さんがこぼす。「イセダさん、入学祝いだっっていつ、何がいいのかって相談しているお客さんが、結局は「万年筆は使う機会が少ない」って、ボールペンとかを選んでっちゃうんです。」私が論ず。「ふだん使わないから、逆に贈り物にいいんですよ。一生にいつぱん、こっそり、でラヴ・レターが万年筆で書ければ、いいじゃないの」

残念。助言は不調。そもそも、恋文が絶滅寸前らしい。

まちかど

絶滅のおそれ、といえば、商店街があやうい時世だ。むかし銀座通り、いまシャッター通り。自分が小商人だからか、カネは近隣で回るのがいい。顔の見える店での買い物が好きだ。会社の事務用品は、通販の分厚いカタログには目もくれず、四の五の言わず、先の店で買う。鳩居堂の葉書やステッドラーの鉛筆がこの街から無くなるのは、わびしい。地域の福祉作業所で渡かれた紙の委託先が失われれば、やるせない。思いがけない文具を見かける喜びは、すうとつづいて欲しい。

私たちがいえば、事故対応に過半の時間が充てられている。一時期、保険会社は、代理店から事故相談を取りあげる施策をうった。顧客ニーズの見誤りの露呈である。人は、突発の事故では、見知らぬ電話の声に全幅の信頼は寄せない。こちらに「いざ、参上」の心構えが要るものなのだ。せつかな方にはマメに、ゆつたりした方には状況を整理したうえで、自己決定を愛好する人には、解決への選択肢を複数用意する。私たちがからの提案を、に最良と受け取る人には最善への道筋を提示する。ひとさまさま、数値データとやらに寄っかってはいられない。

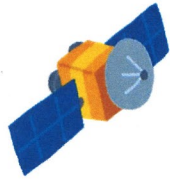
私は分母のおおきさで測る「顧客満足度」とやらは度外視だ。年に数件、いくたりか、あなたに、私たちの合力がなければ、身辺の騷擾おさまらず、生活がほころぶのを防ぐことが務めなはずだ。

「万人はひとりのために、ひとりは万人のために」業に携わる者は、これをキモに銘じよが保険会社の新人教育の初手だった。手のわがが失われただけだろうか。

(C)

タイムマシン

伊勢田 洋次



◆ 少年の頃「光より早い乗り物に乗れば、時間の進み方が逆転して過去に戻る」と聞いた記憶がある。でも「時間は不逆」は誰でも知っていること、過ぎた過去は返らない。過去は痕跡として写真やビデオの映像としてだけで決して過去にもどれない。

◆ 近年、ロケット技術が発展したので、月や他の天体を探査するためにおおくの観測ロケットが打ち上げられている。1977年に打ち上げられた米航空宇宙局の探査機ボイジャー1号はすでに使命を果たしつつ187億キロ先の太陽系を脱出したと報じられた。

◆ その後2006年には太陽系9番目の惑星に位置していた冥王星（今は準惑星と呼ばれる）を探査する目的で打ち上げられた無人探査機は秒速14キロで既に59億キロを飛び冥王星に近づき「摂氏マイナス230度の窒素とメタンの冰山」とのデータを送信してきた。そして太陽系外の果てしもない宇宙に飛び去っていった。

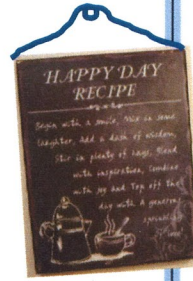
途方も無い彼方からのデータの第一報は秒速30万キロの光速で4.5時間かかって地球に着信したが、これらのデータは宇宙誕生のビッグバンの謎を解く貴重なデータだそうである。つまり過ぎ去った過去の痕跡だからである。

◆ 天文学者は天体を調べて宇宙の成り立ちを解明しようとし、技術者たちは高性能ロケットを開発してとばしてその技術を競い合い、物理学者は新しい理論を展開して物の本質を追及している。しかし、如何ように研究しても、「時間不可逆」という真理を覆がえすことは出来ぬ。高速を超えると相対性理論の方程式では時間は虚数になるそうである。

◆ 事実や理屈を承知していても、それでも若く楽しかったあの頃に戻ってみたいと思うのは何故だろうか。



Happy Day Recipe



Begin with a smile,
Mix in some laughter,
Add a dash of wisdom,
Stir in plenty of hugs,
Blend with inspiration,
Combine with joy and
Top off the day with
A generous sprinkling of love!

「幸いな日」へのレシピ

はじめに、ほほえみひとつ
それに、いくらか笑いを混ぜる
ひとつまみの知恵を入れ
たっぴりのハグでぐるぐる回す
素敵な思いつきがあれば、なじませよう
盛合せには喜びを
仕上げるに、思いきり愛情をふりかければ
出来上がり

さあ、テーブルを囲んで召し上げられ
ほほえみが増せば、
とびつきりの「我等が生けるけふの日」になる

(徒然草第百八段)

ご近所のパン屋さんの店内に掛かる「レシピ」 アメリカ旅行の土産
のこと。ちょっといい。なんとかが日本語になっているだろうか？

ドナルド・トランプという者がアメリカ合州国の大統領になる。会ったことも、話したこともないので、じっさいのところ、どんな人物かを私は知らない。トランプさんの考え方とやりたいことは、私の考えていることと米国民にやってほしいことは、おおきく異なる。違いがあることは、さまざまな人が生きている国家という器のなかで、大切なことであると、私は考えている。この点は、寛容をもって、国内に居住する、自分と異なる人を受け入れてほしいと願う。

彼の、俗耳に甘い主張が、(選挙期間中、具体性を備えた公約というほどのものは寡聞であつた、が)政策としておおくが現実化するとは想定しないが、危惧するところがある。

大統領候補同士のテレビ討論会では、司会者は「負けたときは、選挙結果を受け入れるか」との質問を、慣例として必ずする。選挙結果を受け入れることは、とうぜんのことと思われるかもしれないが、必ず問い質される。ドナルド・トランプは「(私が負けたら、)不正があつたはずなので、受け入れない/負けを認めない」と応じた。

これは、だめである。おおもとの根っこから、大統領として、資質不適格者と私は印を烙す。

* * *

ドナルド・トランプは、選挙という制度を理解しない。私は、選挙のやり方、多様な制度論を言うのではない。制度としての選挙をいう。選挙というのは、武力によらず、平和裡に、つまり平時を保つて権力を委譲する唯一の方法である。政治的には、「静かなる革命」手段。

思考実験をしてみれば、私の説くところが伝わるだろうと思う。

大統領は、米軍の最高指揮官である。現職大統領が、二期めの大統領を野望して、大統領選であらう。そして負ける。大統領の椅子から降りるつもりがなく、権力の座に固執するなら、なにができるか？(以下を、SF映画じみりと嘲笑すること勿れ。「民主」国家の時代である20世紀は、「まさか」の連続だった。)大統領は軍を統帥する。同調する軍人がいちぶにいれば、軍力で反対勢力(選挙勝者)の抑え込みを試みることができる。権力圏内で、現行の権力構造とシステムをぶっこわすのであるから、クーデタ、国家転覆である。

その可能性が皆無ではない。

であるから、討論会司会者は「負けを受け入れるか」と糺す。であるから、オバマ大統領は、自分が前大統領のブッシュ氏から平和にホワイトハウスの明け渡しを受けたので、自身もトランプ氏に平和裡に明け渡し、と明言する。確約する。クーデタの可能性を一毛も残さずに、敵対者から信頼をえるには、まず、これをことばにしななければならない。

ドナルド・トランプはしななかった。まさかが無かろうと高をくくるのは、「政治は可能性の芸術」としての一面が史実のあちこちにあることを知らない者だ。ヒラリー・クリントンは、敗れて、負けを認めた。敗者を要件として、「次期大統領のもとで、偉大なアメリカのためにつとめよう」との有和発言が生きた。自らの敗北を拒むと言う者が、勝者になったとたんに、相手に敗北を受け入れさせ、自分のもとで「一緒にガンバレ」と強要するのは、滑稽だろう。

* * *

白人至上主義の南アフリカ共和国で、ネルソン・マンデラが獄中25年で訴えつづけたのは「(血と肌の色に拘らず)国民としての平等な一票を与えよ」だった。この主張は、民主を謳う国家では、譲ることのできない原理原則としてあり、それを支えるのは選挙という制度へのゆるがぬ信頼である。

こう言う私をドナルド・トランプ氏は、大笑いして返すだろうか。「普通」選挙の積重がたかだか百年に満たない国家、日本国では、一票を平等に扱うべき制度への意識が希薄なのだから。

♡ 自動車保険は、ロード・サービス等を拡充。 使い勝手が良いと、好評です。♡

謹啓、平素は格別のご高配を賜り、ありがとうございます。本年も、自動車保険のご契約者みなさまの一年間の無事故を御祈りいたします。祈念の気持ちを込めて、素品を用意いたしております。ご契約の継続手続きの際にお届けいたします。小社からの花一輪をお受けとりいただければ、幸いです。店主 敬白

いずれ三代目になる和菓子屋の若い職人。このごろ店先に新商品が並び始めた。人生の、春の息吹がちなジョー・ケースにある。